



江戸 職人 の 粋 と 技

江戸職人の粋と技。

東京都伝統工芸品

生活に風流の心を編み込む江戸職人の技と心意気……



沿革と由来

簾は、古くから室内のしきりや日よけなどに使用されてきました。平安時代中期、清少納言の「枕草子」をみますと、宮廷生活の中に簾(この場合は御簾)が使われているのがわかります。

徳川家康の江戸開府以来、江戸の繁栄につれて、武家屋敷、神社仏閣、商家などに簾が使われるようになりました。江戸時代元禄期に発行された「人倫訓蒙図彙」には、江戸の町に御簾師(屋)がいたことがわかります。また、明治5年(1872)発行の「東京府志料」にも、東京各地で簾が生産されている状況が記されています。

江戸時代にはぐまれた江戸簾の伝統の技法は今も受けつがれ、生活の中に風流の心をもたらす粋な室内装飾品として、新しい需要が高まっています。

■東京都知事指定 昭和58年8月1日

伝統的な技術・技法

1. 竹割り なたで大割りし、目(編み順のための見当しるし)をひいた後、へぎ(皮と身をへいでうすくする)を行い、小刀で小割りつけずりをします。
2. 選別 ヨシ、ハギ、ゴギョウ、イヨダケの場合、編み出す製品を想定して、ウラ(先端)、中(中間)、モト(根元)の太さを揃えながら選別をします。
3. 編み 素材のくせを直し、左右均等になるようにウラ、モトを交互に編みあげます。編みの技法には、1本編み、2本編み(松葉編み)、もじり編み、組み編み、蛇腹編み、亀甲編み、こまがえしなどがあります。

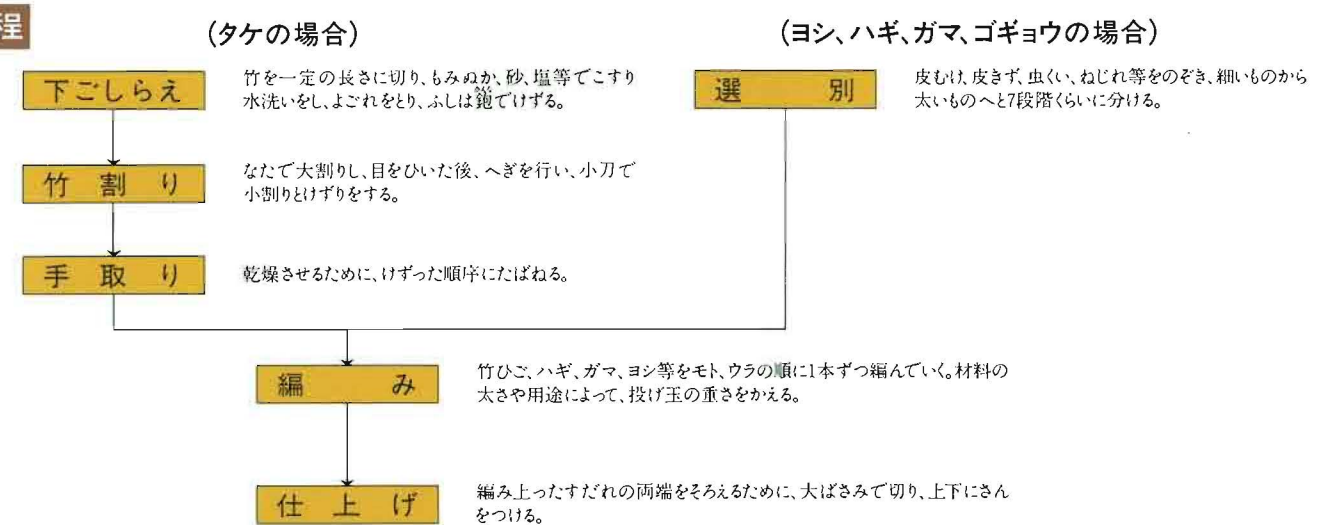
伝統的に使用されてきた原材料

タケ、ヨシ、ハギ、ガマ、ゴギョウ、イヨダケ

主な製品名

内掛簾、外掛簾、応用簾、小物簾

製造工程



内掛すだれ

自然の景色を室内にとりこむ日本人の知恵、座敷すだれは、平安朝の時代から今も生きつづける優雅で格調高い夏の風物詩です。天然素材の味わいと繊細な技法は工芸品として価値ある生活道具です。



外掛すだれ

夏の日差しを柔らかく遮光し、通風もよく目隠しのはたらきもする外掛すだれは丈夫さが身上。素材にはタケ、ヨシ、ゴギョウ、ハギ、ガマなどが用いられます。また茶室用には皮付ヨシの風情が珍重されています。



神前御簾



座敷すだれ



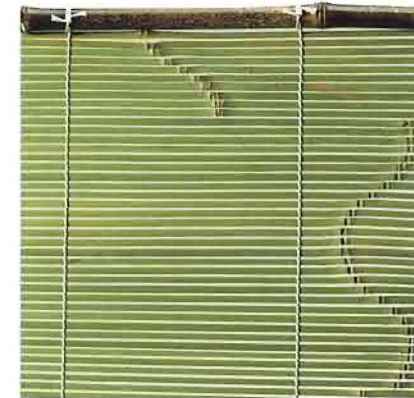
座敷すだれ(分け編み)



座敷すだれ(二分布)



座敷すだれ(四分布)



竹皮すだれ 1800%巾まで



さつまよしすだれ 1200%巾まで



萩すだれ 1100%巾まで



御形すだれ 1200%巾まで



皮付よしすだれ 1000%巾まで



清水竹すだれ 1800%巾まで



割竹すだれ(サビ竹) 1800%巾まで



割竹すだれ(晒竹) 1800%巾まで



地よしすだれ 1800%巾まで

応用すだれ

すだれ障子、衝立、屏風などの応用すだれは、部屋の間仕切りに、また玄関などに日本の伝統美を演出してくれます。ふすまに代わるお部屋の衣替えの機能は生活の句読点です。



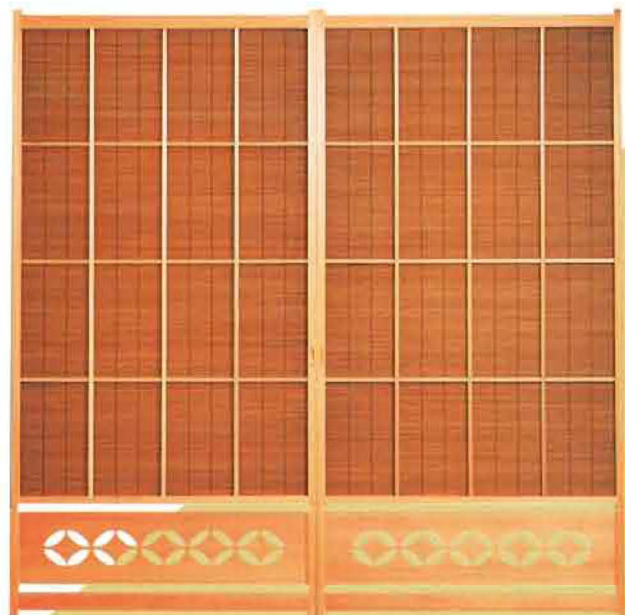
衝立



四枚折屏風



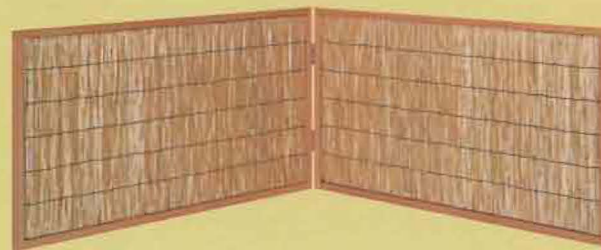
花寄屏風



簾戸



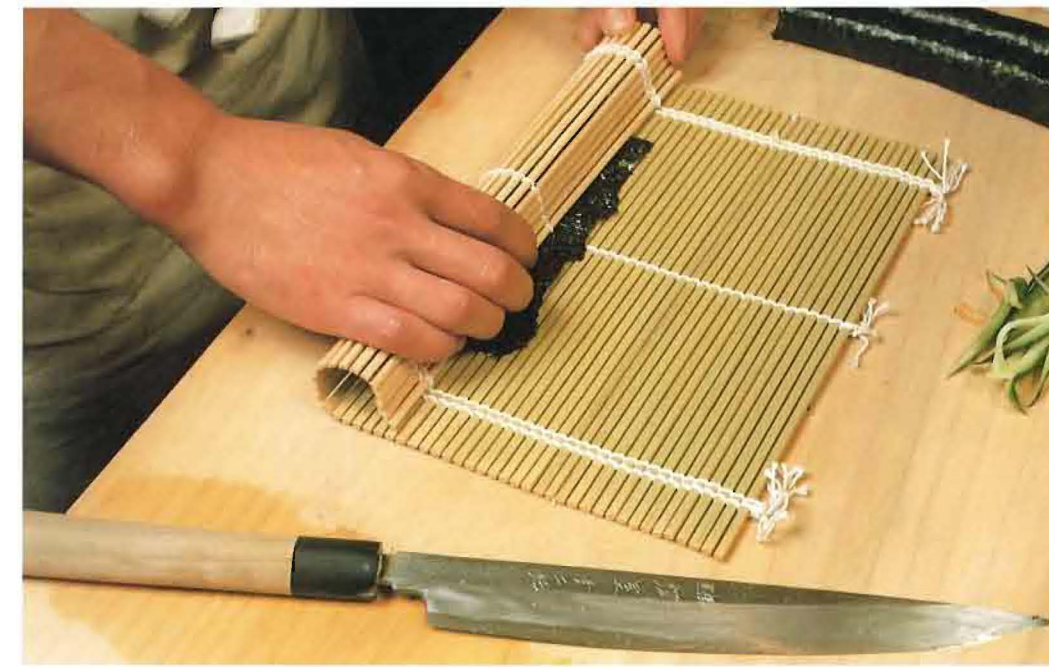
風炉先屏風



風炉先屏風

小物すだれ

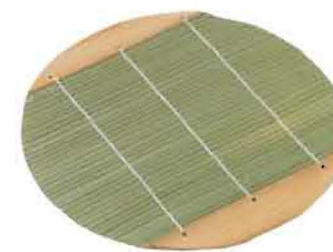
のり巻すだれ、せいろ用すだれは、日本の食生活を支えてきた陰の立役者。業務用に、家庭用にと古くから重宝されてきました。竹のもつ天然素材の味が日本の食文化の味をつくり上げたのです。



のり巻すだれ



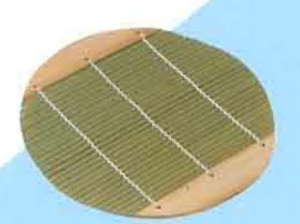
ざるそば用・角



ざるそば用・丸



もりそば用



板重すだれ



オニ黄



伊達巻き用

すだれの基礎知識

●すだれの上手な使い方

〈掛け方〉

よくすだれが手すりなどに触れる状態で掛けてあるのを見かけますが、これだとすだれと手すりが風などでこすり合い編み糸が切れるもとになります。また傾けて掛けますとヨジレや曲りの原因になります。すだれは垂直、水平に掛けてこそ美しく、通風の良さのためには窓から20cmほど離して掛けてください。

〈お手入れ方法〉

夏が終り、外掛すだれをしまう場合、よく水洗いし、陰干してよく乾燥させてから収納してください。収納中のホコリよけには新聞紙などで包んでください。ビニールなどの通気性の悪いものは、むれて素材をいためますので避けてください。また年中掛けっぱなしの場合は、2ヵ月に一度くらいに軽く水洗いするのが永持ちさせるコツです。

内掛すだれ、応用すだれなどは水洗いを避け、ヨゴレやホコリを入念にとり除き、よく乾燥させてしまってください。

料理などによく使う小物すだれ(のり巻すだれなど)はこまめによく洗い、水切りをよくしてから湿気の少ない場所にしまうようにしてください。

●東京都伝統工芸品の江戸簾は、お客様のご希望どおりの巾、長さのものを注文製造しています。また立て付けの調整や修理サービスにも応じますのでお気軽にご用命ください。いいすだれは修理(リフォーム)して使う価値のあるものです。

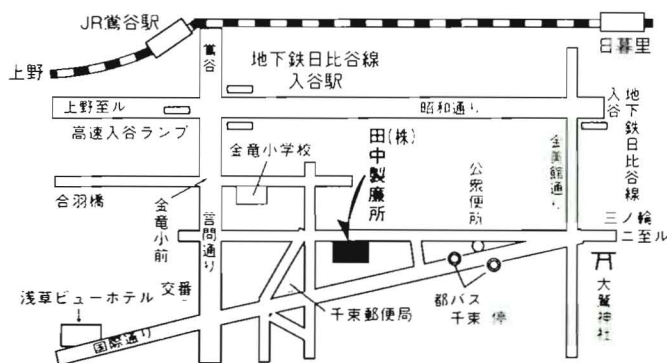


東京都伝統工芸品マーク

●東京都の伝統マーク

このマークは、「東京都知事指定伝統工芸品」について、都の紋章と伝統工芸の頭文字の「伝」をあしらったもので、検査に合格した製品にのみ、貼ることとなっています。

案内図



■交通機関 地下鉄・入谷駅(竜泉寺方面出口)歩7分
 バス・日暮里←→錦糸町間千束下車
 国電・鶯谷駅よりタクシーで8分

株式会社 田中製簾所

本社 東京都台東区千束1-18-6
 〒111 電話03(3873)4653・5388
 FAX 03(3874) 0746
 倉庫 東京都台東区今戸2-30-9